

「LINE LINE(ライン
イフライン)」は8日、いわき市のイオンモールいわき小名浜で開かれた。参加者が大地震の発生時に取るべき行動を、体験型の謎解きゲームを通して学んだ。震度6強の地震が発生したという想定の下、参加者が協力してミッションをクリアし、会場からの脱出を目指した。制限時間や暗い照明といった悪条件の下での発想や冷静な判断が求められた。

「いつもできる」ことができなくなつた。この経験を友達に教える、「高木理央さん(10)は「他の人たちの頑張りに励まされた。災害が起きた時には周りを助けた」と語った。

アトラクションはフランプゼロアルファ(大阪府)が製作したコンテンツ。終了後に講演した同社の松田哲社長(危機管理士)は全国の被災地と避難所を訪れた経験から「冬の避難所の床は氷のように冷たいこともある」と話し、新聞紙で作るスリッパやマフラーを



災害が起きたときに大切なことは何でしょうか。



(When) いつ？

(Where) どこで？

(Who) 誰が製作したアトラクション？

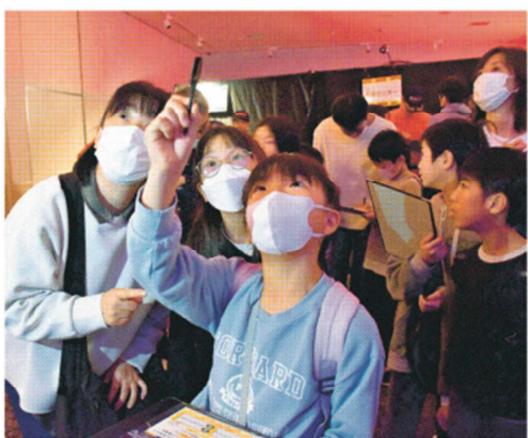
(What) 何を?

(How) どのようなアトラクション？

(Why)なぜアトラクションが開かれた?

大地震「脱出」 謎解きで体験

いわきでイベント



体験型の謎解きゲームを通して大地震発生時の対応を学んだ参加者

▲11月13日 福島民友新聞掲載

記事を読んだ感想や意見を書いてみよう。